

---

# 贈り物を君に

棒人間

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

贈り物を君に

### 【Nコード】

N9824Y

### 【作者名】

棒人間

### 【あらすじ】

詩…でしょうか…？

はい、詩ですね…。

**（前書き）**

これは酷いや、です。

なんていうかこれ書いてた時自分は頭の中お花畑だったに違いないです。

でも、書き上げたので良かったら。

手を離し歩きだした私の後ろの君は笑い掛けた。  
とても暖かい心地がした。

私は言う。

ありがとう。

向こう側には聴こえないけれど。

一生懸命唄うから。

君にも聴こえるように。

1人の時は守ってくれた君へ。

「もう大丈夫だよ」って。

「心配しないで」って。

春が冬に逆戻りするようなそんな唄を贈ります。

春が待ち遠しいけどまた春はやってこない。

歩いて来た道を振り向いてみたら君はもう其処には居なかった。  
君の居た場所を眺めて呟く。

また会えるといいのにね。

さようなら。

もう行ってしまった君への唄。

この唄を君はよく唄っていたよね？  
また一緒に唄いたいね。

2人で歩いた思い出と共に。  
この先行きたいと願うけどそれは辛い。

夕立が降ってくるような、そんな気持ちだった。

私は今日傘を無くしてしまつたよ。  
昔はそんな事無かつたのに。

濡れてしまつたろうけど新品は要らない。

暗い暗い闇の中君の手を探して握りしめた。  
雨に打たれて冷え切つた君の手。  
「と囁く君。

始まりがある者は終わりもある。  
そんな事実今更気づいたよ。

1人の時は守ってくれた君へ。  
唄とそして花を送ります。

このまま手を握り返してくれなくても、冷たい手のままでも、雨上

がりの空を見上げて今度はしっかり歩くよ。

だから。

（後書き）

どうでしたか…？

ガラスのハートの作者ですがいぢめるつもりで正直な感想くねると  
悦びます。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9824y/>

---

贈り物を君に

2011年11月29日19時51分発行